

令和5年度版

(令和4年度分)

豊明市の環境概況

ユートピア
人と人、人と地域、人と自然の環境理想都市 豊明

豊 明 市

< 目 次 >

第 1 章	豊明市のあらまし	1 ページ
第 2 章	環境行政の概要	3 ページ
第 3 章	公害苦情	7 ページ
第 4 章	大気汚染	8 ページ
第 5 章	水質汚濁	10 ページ
第 6 章	騒音・振動	15 ページ
第 7 章	悪臭	18 ページ
第 8 章	地盤沈下	20 ページ
第 9 章	廃棄物	21 ページ
第 10 章	環境衛生関係	23 ページ
第 11 章	新エネルギー対策	26 ページ
第 12 章	環境関連年表	29 ページ

第1章 豊明市のあらまし

1 沿革

豊明市は、愛知県の中央部よりやや西部に位置し、東は境川を隔てて刈谷市、西は名古屋市、南は大府市、北は東郷町に接している。また、市南側を名古屋鉄道本線、国道1号23号が横断しており、伊勢湾岸自動車道の開通も併せて交通至便の地でもある。

また近年、名古屋市に隣接するベッドタウンとして急速に発展した「新しい街」であると共に、戦国時代には、織田信長が天下統一の糸口として今川義元の大軍を破った桶狭間の戦いがあったとされる、桶狭間古戦場を有する「歴史の街」でもある。

産業の面では、中部の都心である名古屋市と、世界の自動車産業の中心都市である豊田市との間に位置し、関連企業も多く商工業の近代都市に変貌をしてきている。

一方、自然環境の面でも、大変恵まれた環境を有しており、現存する緑や水辺には多様な生物が生息をしている。

豊明市は町村制施行により明治22年10月1日に東阿野村、栄村を知多郡から愛知郡に編入、同時に栄村、東阿野村、沓掛新田と大澤村とも合併して豊明村が組織され、明治39年5月10日に沓掛村と旧豊明村が合併して現在の市域を形成した。その後、昭和47年8月1日に人口37,038人の「豊明市」が発足し、現在に至っている。

2 位置・地勢・気象

地形は、北東部から南西部にかけて延びる標高50mから70mの丘陵地帯と、境川に沿った中・低位の段丘群（台地地形、標高5mから15m）、中小河川に沿って形成された沖積低地の三つの部分から成り立っている。

北西部に存在する丘陵の頂点は72mの二村山で、北西の丘陵地帯は南西方向に延びる隆起帯にあたっていて、「猿投・知多上昇帯」と呼ばれる。

東経	北緯	東西最長	南北最長	平均標高	総面積
136° 58' ~137° 03'	35° 01' ~35° 06'	6.53km	7.65km	15m	23.22 k m ²

(令和4年度分)

最高標高	最低標高	最暖月平均気温 (令和4年8月)	最寒月平均気温 (令和5年1月)
72m	1.5m	28.5℃	5.2℃

3 人口

世帯数及び人口の推移（各年3月31日現在・外国人含む。）

年次	人口	世帯数	世帯当たり人口	備考
平成30年	68,728	29,491	2.33	
31年	68,817	29,864	2.30	
令和2年	69,027	30,235	2.28	
3年	68,839	30,502	2.26	
4年	68,337	30,478	2.24	

4 土地利用の現況

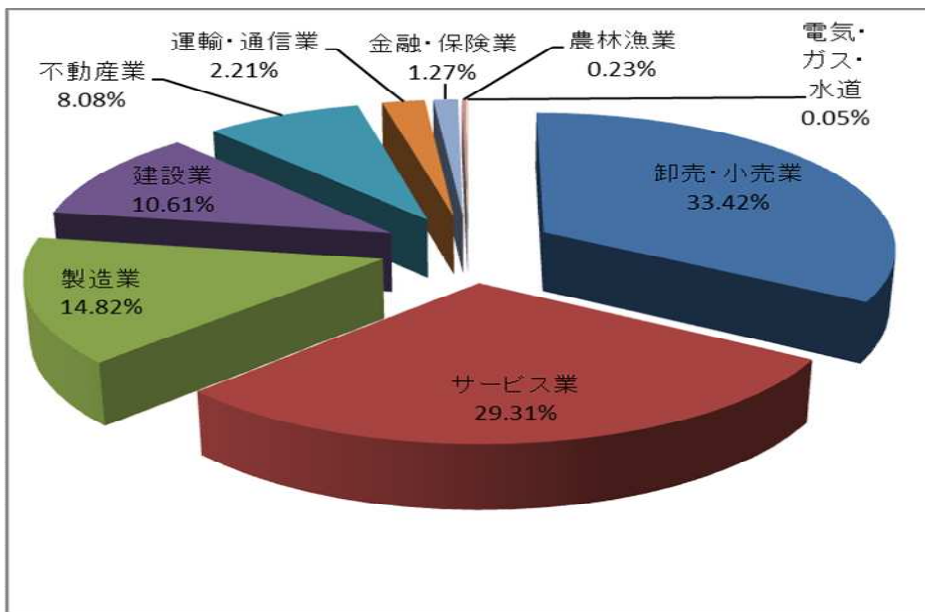
市街化区域面積（令和5年3月30日告示）

区分	第一種低層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第一種住居地域	第二種住居地域	近隣商業地域	商業地域	準工業地域	計
面積 (ha)	103	370	121	41	32	1.6	60	729
比率 (%)	14.2	50.8	16.6	5.7	4.4	0.2	8.2	100
全体比率 (%)	4.4	15.9	5.2	1.8	1.4	0.1	2.6	31.4

地目別利用面積 (ha)

年	行政面積	宅地		農用地		森林	その他
		住宅地	その他	田	畑		
令和2年	2,322	511	190	332	147	108	1,034

5 産業の現況（事業所総数2,214件の構成比 平成28年現在）



第2章 環境行政の概要

1 令和4年度のあゆみ

4月28日	尾張東部環境保全連絡協議会総会
5月17日	尾張地区環境行政地域連絡協議会
5月22日	環境フェスタ
5月30日	豊かな海“三河湾”環境再生推進協議会第33回総会（書面開催）
6月10日	尾張地域環境保全連絡会議
6月27日	尾張東部環境保全連絡協議会事務連絡会議
6月16日17日	自動車騒音測定（国道1号、23号、県道瀬戸大府東海線）
6月29日30日	水質調査（市内24か所）
7月21日	名古屋市近隣市町村不法投棄連絡協議会
7月29日	環境審議会
8月25日	尾張東部環境保全連絡協議会 実務研究会・事務連絡会議
9月30日	犬のしつけ方教室（屋内）
10月7日	豊かな海“三河湾”環境再生推進協議会第1回常任幹事会（WEB会議）
10月14日	犬のしつけ方教室（屋外）
11月14日	尾張東部環境保全連絡協議会幹事会
12月5日6日	水質調査（市内24か所）
2月1日	尾張東部環境保全連絡協議会 尾張東部・尾張西部合同会議
2月7日	豊かな海“三河湾”環境再生推進協議会第2回常任幹事会（WEB会議）
3月1日	境川流域4市1町公害担当者会議（書面開催）
3月下旬～	グリーンカーテンを作るためのゴーヤとウリズンの種を無料配布

2 職員状況（経済建設部環境課）

（令和4年4月1日現在）

職名	係名	環境保全係	ごみ減量推進係 （清掃事務所含む）	合計
部長			1	1
部次長			0	0
課長			1	1
課長補佐			1	1
担当係長		1	（補佐兼1）	1
事務員（再任用含む）		3	3	6
清掃手等（再任用含む）		—	6	6
合計				16
※環境監視員：2名				

3 環境審議会

(1) 環境審議会委員

(令和4年7月1日現在、敬称略)

職名	氏名	所属団体等	備考
会長	島田 隆道	公益社団法人こども環境学会代議員	学識経験者
副会長	井内 尚樹	学校法人名城大学 教授	学識経験者
委員	池野 昭子	豊明エコキッズ	各種団体
委員	北川 昭雄	豊明市区長連合会	各種団体
委員	久保 信夫	生活協同組合コープあいちとよあけ店	各種団体
委員	中野 幸夫	NPO法人 環境研究所豊明	各種団体
委員	松本 昇	豊明市商工会	各種団体
委員	木村 文柄	とよあけ生活学校	各種団体
委員	星野 光司	一般社団法人 豊明青年会議所	各種団体
委員	横井 康人	東邦ガスネットワーク(株)	事業者代表
委員	伊藤 正樹	ホシザキ(株)	事業者代表
委員	岩田 真二	UD リテール(株)	事業者代表
委員	岡本 一彦	あいち尾東農業協同組合豊明支店	事業者代表
委員	笠原 尚志	(株)中西	事業者代表
委員	杉浦 啓之	エナジーK(株)	事業者代表
委員	濱口 宗久	中部電力パワーグリッド(株)	事業者代表
委員	山本 丈晴	愛知県尾張県民事務所環境保全課	関係行政機関
委員	西谷 智子	一般公募	一般公募
委員	田中 清子	一般公募	一般公募

任期 令和6年5月31日まで(2年間)

(2) 審議会

第1回 令和4年7月29日(金)午後2時～

- 内容
- ・第2次豊明市環境基本計画における令和3年度の実績について
 - ・太陽光発電事業(令和3年度)発電量について
 - ・豊明市家庭系ごみ減量化実施計画における減量化目標の達成状況について

4 公害防止に関する施策

(1) 公害防止協定

本市では、これまで大規模な工場の進出が少なく、協定の締結に至る企業はなかったが、平成10年11月中部土木(株)の移転に伴い、地域住民の生活環境に配慮することを目的として協定が初めて締結された。

その後、栄町新左山工業団地の造成が行われ、進出企業と公害防止について万全を期するため、協定を順次締結している。

締結企業	所在地	業種
中部土木(株)	栄町神田	アスファルトプラント等
(株)ナカシマ	新左山工業団地内	専用機(金属工作機械)製造
東陽工業(株)	新左山工業団地内	航空機部品製造
(株)中西	新左山工業団地内	プラスチック成型材料の製造
日高工業(株)	新左山工業団地内	自動車部品製造
(株)松尾製作所	新左山工業団地内	精密バネ製造
(株)マツミヤケミカル	新左山工業団地内	パウダーコーティング
(株)ニッシン自動車工業	新左山工業団地内	福祉自動車製造
(株)小菅製作所	新左山工業団地内	精密バネ製造
(株)古屋工業所	新左山工業団地内	自動車部品製造
原幸雄(個人事業者)	新左山工業団地内	自動車部品製造
(株)フクオカ	新左山工業団地内	自動車部品製造
(株)石川マテリアル	沓掛町切山	廃棄物再生事業
エフワイ成型(株)	沓掛町岩金	ガス機器等製造業
千代田工業(株)豊明工場	沓掛町岩金	プレス金型設計・製造
(株)東郷製作所	沓掛町豊山	バネ・電子部品製造

(2) 地域環境保全委員

地域における環境保全活動の推進を図るため、愛知県環境基本条例(平成7年施行)に基づき、2名の地域環境保全委員を県が委嘱している。公害発生状況の調査・報告、苦情相談の受付報告、地域の環境美化活動等の環境保全に関する啓発を業務としている。

担当(国道1号を境界として)	氏名(敬称略)	任用
北部地域	土井富士子	令和4年4月1日から
南部地域	青木 隆夫	令和4年4月1日から

5 豊明市廃棄物5条例

廃棄物の不適正処理問題が各地で問題化する中で、早期の対応を実行し、未然防止にも役立てるため現行法、県指導要綱を補完する五つの条例を制定し、平成11年6月1日施行した。

共通の項目としては市による立入検査などの権限。指導、勧告、命令の権限。命令違反に対しては20万円以下の罰金を課する罰則の規定をしている。

(1) 屋外燃焼行為の規制に関する条例

野焼きの禁止をするとともに、焼却設備（簡易型焼却炉）において燃やすことのできない物質を規制対象物質として規定している。

(2) 廃棄物焼却施設の設置及び運用の規制に関する条例

県知事許可対象施設の設置にあたり市長の同意を必要としている。

また、区域外への排水等の水質検査及び焼却灰等の溶出検査を指示、結果の報告をさせることを規定している。

(3) 廃棄物最終処分場の運用の規制に関する条例

区域外への放流水及び浸出水等の水質検査を指示、結果の報告をさせることを規定している。

(4) 廃棄物不法投棄の防止に関する条例

不法に埋め立てられた廃棄物の確認ができるよう、土地所有者の同意を得て市が掘り起こす権限を規定している。

また、撤去の命令をするとともに、投棄者に撤去能力がないときは、土地所有者に指導を行う。

(5) 産業廃棄物屋外保管の規制に関する条例

500㎡以上の保管面積の場合、設置にあたり市長の同意を必要としている。

6 豊明市環境監視員制度

廃棄物5条例の施行に伴い、迅速で実効性のある対応のため、平成11年より環境監視員を設置（平成20年度より2人体制（土日祝日出勤））し、市内全域のパトロール活動を行うことによって、苦情発生後の対応型から未然防止型への転換を図り、市民のよりよい生活環境の保全を目指している。

また、不法投棄等の違法行為の発生時には、その調査や指導、警察等関係機関等との連絡調整を行っている。

環境監視員活動状況

区分	野焼き	野焼き以外の 大気汚染	水質 汚染	土壌 汚染	騒音	振動	地盤 沈下	悪臭	その他	活動 日数
令和2年度	42	2	1	0	111	0	0	5	290	358
令和3年度	41	0	2	0	45	0	0	3	237	359
令和4年度	21	1	5	0	68	0	0	9	234	359

第3章 公害苦情

1 概況

公害苦情は、市民の日常生活に密着した問題であり、その適切な対応は公害を防除し、良好な生活環境を確保する上からも重要である。このため市では県瀬戸保健所豊明保健分室をはじめとする関係機関と協力体制を組み、発生源への立入調査や行政指導など迅速かつ適正な処理に務め、その解決を図っている。

公害苦情を件数で見ると、令和4年度は大気汚染1件、水質汚濁2件、騒音7件、その他6件の合計16件である。

雑草苦情といった土地管理等のいわゆる近隣苦情はここには含まれていないが、毎年かなりの数の申立てがなされている。

2 苦情の発生状況

(1) 公害苦情受付件数

区分	総数	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌	その他
平成30年度	21	4	1			3		7
令和元年度	22	3	2	7		2	1	7
令和2年度	21	2	2	5		7		5
令和3年度	21	5	1	1		8		6
令和4年度	16	1	2	7				6

その他…不法投棄等

(2) 用途地域別公害苦情受付件数 (令和4年度)

区分	総数	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌	その他
総数	16	1	2	7				6
第一種低層	1							1
第一種中高層	2			2				
第一種住居地域	1			1				
第二種住居地域								
近隣商業地域								
商業地域								
準工業地域								
未指定地域	12	1	2	4				5

第4章 大気汚染

1 概況

大気汚染については、豊明中学校に県管理の測定局が設置されており、窒素酸化物（NO_x）、浮遊粒子状物質（SPM）、光化学オキシダント（O_x）が常時測定されている。

平成15年12月に伊勢湾岸自動車道の大気環境測定局（阿野地区）、平成16年3月には大脇地区の測定局を日本道路公団（現在：中日本高速道路株）より市に移管され、常時観測を行っている。（阿野局は10年間の協定を終え、測定値も安定して基準値以下であることから、令和3年度をもって閉鎖となった。）

なお、本市は幹線国道が集中しており、伊勢湾岸自動車道も開通し、開通後の汚染状況を監視する意味から県の協力を得て現況調査測定も行っている。

2 大気汚染防止のための規制

大気汚染を防止するため、昭和43年6月に大気汚染防止法が公布された。その後、大気汚染の広域化、多様化に対応して法改正が適宜行われ、工場、事業場の固定発生源から排出される硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん等のばい煙や粉じん、あるいは自動車から排出される一酸化炭素、窒素酸化物、炭化水素等について各種の規制が行われるようになった。

平成9年1月にはトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及びベンゼンの3項目が有害大気汚染物質の指定物質となり、同年2月に環境基準と排出規制基準が告示された。さらに、12月にはダイオキシン類が指定物質に追加され、排出抑制基準が設定された。

県では、昭和46年4月に公害防止条例を公布し、規制対象施設の種類及び規模の拡大並びに有害物質の規制を行い、昭和49年4月の条例改正により硫黄酸化物総排出量規制及び炭化水素系物質の規制を実施してきたが、平成15年10月1日に「県民の生活環境の保全等に関する条例」に全面改正され、ばい煙発生施設等に関する規制が強化された。なお、大気汚染防止法に基づく、ばい煙発生施設、粉じん発生施設の事業所届出先は、愛知県である。

3 一般環境大気測定局による大気汚染調査

○愛知県自動測定局が、昭和60年1月に沓掛町から移設された。

測定局	所在地	測定項目	環境基準（1時間値の1日平均値）
豊明中学校	西川町横井4番地15	窒素酸化物（NO, NO ₂ ）	0.04ppm～0.06ppm 内 又はそれ以下（NO ₂ のみ）
		浮遊粒子状物質（SPM）	0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、 1時間値が0.20 mg/m ³ 以下
		光化学オキシダント（O _x ）	0.06ppm 以下
		風向・風速	— ・ —

年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
窒素酸化物 ppm	0.012	0.012	0.011	0.010	0.010
二酸化窒素 ppm	0.011	0.010	0.009	0.009	0.009
一酸化窒素 ppm	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001
浮遊粒子状物質 mg/m ³	0.018	0.017	0.016	0.015	0.015
光化学オキシダント ppm	0.034	0.034	0.034	0.035	0.034

(愛知県大気汚染常時監視結果、豊明局年間統計値 年平均)

○伊勢湾岸自動車道の大気環境測定局(阿野局・大脇局)が日本道路公団より市に移管された。

平成16年1月5日設置、令和3年度閉鎖

測定局	所在地	測定項目
阿野地区	阿野町奥屋69	一酸化炭素(CO) 浮遊粒子状物質(SPM)

※阿野局は10年間の協定を終え、測定値も安定して基準値以下であることから、令和3年度をもって閉鎖となった。

平成16年4月1日設置

測定局	所在地	測定項目
大脇地区	栄町新左山1-331	一酸化炭素(CO) 窒素酸化物(NO, NO ₂ , NO _x) 浮遊粒子状物質(SPM) 風向・風速

観測データは、環境課ホームページにて公開をしている。

4 光化学スモッグ予報

令和4年度は、愛知県内で光化学スモッグ予報・注意報の発令はなかった。

愛知県下の光化学スモッグ緊急時発令状況及び被害状況等の経年変化

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
注意報発令日数	2	1	0	1	0	0	3	3	0	0	0
予報発令日数	2	5	1	7	3	1	4	4	0	0	0
被害届出人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※予報から注意報に切り替えた場合は注意報発令日数のみに計上。

第5章 水質汚濁

1 概況

水質汚濁とは、工業、農業などの事業活動や家庭生活などの人の活動に伴う排水によって、河川、湖沼、海域等の公共用水域が汚染されることをいう。これによって水道用水、工業用水、農業用水等の水利用に支障をきたしたり、悪臭が発生したりするなど生活環境に悪影響が及ぼされる。また生息生物にとっては、その生息環境が危ぶまれる状態も発生することになる。

このため、公共用水域の利水に応じた水質を確保することを目的に、環境基本法に基づき環境基準が定められている。

市内には境川を始めとする大小河川と50余箇所のため池がある。このうち6河川と8排水路、8池を年2回定期的に水質検査していたが、平成18年度より天王川を定期追加し、7河川とした。さらに、若王子池の水質を監視するために、上岸（若王子町内会側）と下岸（堤防）の2箇所より採水調査を継続して実施している。

2 水質汚濁の現況

豊明市内の河川のうち、境川のみ環境基準値が設定されている。境川の環境基準は、新境橋（刈谷市今川町の国道1号）より上流はB類型であり、新境橋より下流はC類型とされていたが、近年の河川水質の改善により、愛知県が見直しを実施した結果、平成31年3月29日より新境橋より下流もB型となった。

生活環境の保全に関する環境基準（河川）

	B 類 型
水素イオン濃度 (pH)	6.5 以上 8.5 以下
生物化学的酸素要求量 (BOD)	3 mg / L 以下
浮遊物質 (SS)	25 mg / L 以下
溶存酸素量 (DO)	5 mg / L 以上
大腸菌群数	5,000MPN / 100mL 以下

ため池の水質については、生活環境の保全に関する環境基準（天然湖沼及び貯水量が1,000立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖）に基づき、C類型とV類型を準用した。

- ・ C 類型 水素イオン濃度 (pH) 6.0 以上 8.5 以下
- 化学的酸素要求量 (COD) 8 mg / L 以下
- 浮遊物質 (SS) ごみ等の浮遊が認められないこと
- 溶存酸素量 (DO) 2 mg / L 以上
- ・ V 類型 全窒素 (T-N) 1 mg / L 以下
- 全燐 (T-P) 0.1 mg / L 以下

夏季調査結果（採水日：令和4年6月29・30日）

	pH	水温	DO	BOD	COD	SS	大腸菌群数	ノルマル ヘキサン	全窒素	全りん
		℃	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	MPN/100ml	mg/L	mg/L	mg/L

河川

境川	7.9	23	8.5	1.9	7.1	4	33,000	0.5 未満	1.2	0.17
若王子川	7.5	22	5.9	2.9	7.1	16	170,000	0.5 未満	1.8	0.17
井堰川	7.9	22	8.3	2.9	10.0	11	49,000	0.5 未満	1.5	0.28
正戸川	8.8	23	5.8	2.2	7.3	4	7,900	0.5 未満	2.7	0.34
黒部川	8.3	22	6.1	5.3	9.2	3	230,000	0.5 未満	4.6	0.52
皆瀬川	9.5	23	16.4	1.6	6.2	3	13,000	0.5 未満	3.3	0.28
天王川	7.2	22	5.1	4.3	9.3	17	130,000	0.5 未満	1.9	0.22
阿野川	7.7	23	7.2	3.2	8.6	17	33,000	0.5 未満	5.2	0.46

池

若王子池 (上岸)	8.5	22	6.9	—	13	24	—	—	2.4	0.21
若王子池 (下岸)	9.7	22	10.2	—	16	12	—	—	1.6	0.12
勅使池	8.8	22	9	—	12	54	—	—	1.3	0.25
濁池	8.1	22	7.9	—	5.6	3	—	—	0.34	0.028
三崎池	9.3	22	10.3	—	9.8	18	—	—	0.9	0.067
大蔵池	9.1	23	10.3	—	8.7	17	—	—	0.65	0.11
大原池	7.7	23	8.5	—	5.1	5	—	—	0.33	0.048
琵琶ヶ池	9	23	9.9	—	15	8	—	—	1	0.036
西池	10.5	22	22.9	—	32	47	—	—	3.4	0.31

排水路

五軒屋	8.0	23	9.0	5.9	8.1	6	79,000	0.5 未満	3.9	0.38
山ノ田	9.9	23	15.2	2.6	8.7	5	17,000	0.5 未満	4.2	0.41
違井	8.1	22	7.6	5.1	10	36	1.8 未満	1.4	1.5	0.23

冬季調査結果（採水日：令和4年12月5・6日）

	pH	水温	DO	BOD	COD	SS	大腸菌群数	ノルマル ヘキサシ	全窒素	全磷
		℃	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	MPN/100ml	mg/L	mg/L	mg/L

河 川

境川	7.4	21	10.4	2.2	4.5	5	23,000	0.5未満	2.4	0.13
若王子川	7.3	20	10.3	1.9	4.9	5	23,000	0.5未満	2.6	0.072
井堰川	7.4	19	10.9	2.6	7.9	10	330,000	0.5未満	2.1	0.13
正戸川	7.7	21	9.6	1.4	4.2	3	11,000	0.5未満	2.4	0.12
黒部川	7.9	19	8.6	2.4	9.6	2	130,000	0.5未満	4.3	1.5
皆瀬川	7.7	21	11.9	2.3	5.3	3	17,000	0.5未満	4	0.29
天王川	7.2	19	7.3	1.7	5.1	10	49,000	0.5未満	1.9	0.073
阿野川	7.8	21	8.9	1.7	4.1	6	11,000	0.5未満	5.7	0.13

池

若王子池 (上岸)	7.3	19	6.8	—	6.1	5	—	—	4.9	0.31
若王子池 (下岸)	7.3	19	8.6	—	7.6	24	—	—	1.5	0.096
勅使池	工事の ため測 定不可	工事の ため測 定不可	工事の ため測 定不可	工事の ため測 定不可	工事の ため測 定不可	工事の ため測 定不可	工事のため 測定不可	工事のため 測定 不可	工事のため 測定 不可	工事のため 測定 不可
濁池	7.5	19	9	—	6.3	12	—	—	0.39	0.036
三崎池	7.4	19	8.9	—	7.3	7	—	—	0.52	0.04
大蔵池	7.9	21	10.1	—	9.8	12	—	—	0.95	0.048
大原池	7.7	21	10	—	6.3	4	—	—	0.35	0.023
琵琶ヶ池	7.9	20	9.5	—	15	11	—	—	1.3	0.028
西池	8.7	20	14.3	—	13	39	—	—	2.3	0.21

排水路

五軒屋	7.5	20	7.1	4.4	6.5	3	33,000	0.5未満	5.7	0.42
山ノ田	8.1	20	12.6	4.3	7.7	1	49,000	0.5未満	5.3	0.48
違井	8.1	20	7.2	1.7	7.5	4	49,000	0.5未満	0.63	0.052

費用

水質調査を年2回実施している。

(単位：円)

	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度
委託 金額	1,922,400	1,980,000	1,980,000	1,848,000	1,980,000

(1) 水質汚濁の規制の概要

工場や事業場の排水による、公共用水域及び地下水の水質汚濁防止を図るため、昭和46年6月24日に水質汚濁防止法が施行された。また、利水に適した水質の確保及び生活環境を保全するため、環境基本法に基づき、行政上の目標として環境基準が定められている。

公共用水域については、昭和46年12月に水質汚濁に係る環境基準が告示され、人の健康の保護に関する環境基準項目（以下、健康項目）としてシアン等7項目が、生活環境の保全に関する環境基準項目としてCOD等5項目が設定された。その後、随時改正が行われ、昭和50年7月にはPCBが、平成5年3月には、健康項目に有機塩素系化合物等15項目が追加され基準値が設定されるとともに、継続して水質測定を行い、その推移を把握すべきものとして、平成11年2月には要監視項目25項目のうち、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素の3項目が健康項目に追加された。また、生活環境項目に窒素及びリンの環境基準が昭和57年12月に追加された。

地下水については、水質汚濁防止法に基づき、昭和47年、48年に全国一律の排水基準より厳しい上乗せ基準が設けられた。また昭和54年の法律改正によって水質総量規制が設定されたことに伴い、化学的酸素要求量（COD）を対象項目とした総量規制が導入された。その後、昭和62年に第2次規制、平成3年に第3次規制、平成8年に第4次規制が実施されてきた。平成9年3月には地下水の水質汚濁に係る環境基準が設定された。平成16年度を目標年度とする第5次の総量規制は、従来のCODの基準を一部の業種について強化し、窒素含有量及びリン含有量を新たに対象項目に加え、平成14年10月に施行された。

本市では、「水質環境基準が現に確保されていない公共用水域」あるいは「自然的及び社会的条件に照らし、水質の保全を図ることが特に重要な公共用水域であって水質の汚濁が特に進行しているもの」として、境川流域を対象とし、平成5年に愛知県知事により生活排水対策重点地域の指定を受けた。この指定を受け、主要な発生源として生活排水を位置づけ対策に努めている。

(2) 生活排水対策

水質汚濁の原因は、これまで工場や事業場の排水が主であったが、最近では台所、洗濯及び単独処理浄化槽等の生活排水が大きな割合を占めている。本市の中小河川もこうした状況にあるため、平成元年度から合併処理浄化槽の普及を進めるとともに、従来から行っている生活排水対策の意識啓発事業を拡充し、実践活動を推進している。

《合併処理浄化槽設置事業費補助金制度》

平成元年度から豊明市合併処理浄化槽設置事業費補助金交付要綱を制定し、家庭の台所、風呂及び洗濯等から出される雑排水と、し尿を併せて処理することができる合併処理浄化槽を設置する者に対して補助金の交付を行っている。

〈制度の概要〉

・補助対象地域

公共下水道事業計画区域及び農村集落家庭排水施設が使用できる区域を除く区域。

・補助対象者（平成31年4月1日より改訂施行）

- ① 既設の単独処理浄化槽から合併処理浄化槽へ切り替える場合
- ② し尿くみ取り便所から合併処理浄化槽へ切り替える場合

・補助対象となる浄化槽

- ① し尿と雑排水を併せて処理し、BODの除去率90%以上、放流水のBODの日間平均値20mg/L以下の機能を有するとともに、国庫補助指針に適合する合併処理浄化槽
- ② 合併処理浄化槽のうち放流水の総窒素濃度が15mg/L以下、又は総磷濃度1mg/L以下の機能を有する高度処理浄化槽

・補助金額（R4年度）

（単位：円）

人槽区分	5人槽	7人槽	10人槽
合併浄化槽補助金 （撤去費用含む補助金額）	532,000 (622,000)	614,000 (704,000)	748,000 (838,000)
件数	2	3	0
高度処理浄化槽補助金 （撤去費用含む補助金額）	644,000 (734,000)	686,000 (776,000)	776,000 (866,000)
件数	0	0	0

※既設の単独処理浄化槽または、し尿くみ取り便所を撤去する場合は（ ）内の金額

・補助事業による整備状況

年度	H30	R元	R2	R3	R4
件数	21	6	4	5	5

・決算金額

（単位：千円）

年度	H30	R元	R2	R3	R4
金額	4,930	4,022	2,652	3,326	3,266

第6章 騒音・振動

1 概況

騒音・振動は、住民の日常生活に密着した問題として深く関わり、また人によって感じ方が異なり、その人の主観や感情など心理的な要因に大きく左右される。このことから、その解決に当たっては、地域の実情をよりの確に把握している市町村の役割が大きいといわれている。

このため、騒音規制法、振動規制法及び県民の生活環境の保全等に関する条例（県民生活環境保全条例）に基づいた規制、指導は市町村長が行い、県は規制地域の指定、規制基準の設定及び市町村に対する協力・支援を行っている。なお、豊明市は特別に騒音・振動に係る各法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定はされていない。

2 工場、事業場の騒音・振動

公害関係法令が整備される中で、昭和44年に騒音規制法、53年に振動規制法の指定地域となり、併せて県民の生活環境の保全等に関する条例（平成15年10月1日施行）によって法を補う規制がなされている。これらの法令に基づき、特定施設を設置する工場、事業場は、騒音・振動について当該施設の設定等の届出及び規制基準の遵守が義務づけられている。

特定施設の届出件数（令和4年度）

種類	騒音規制法	振動規制法	県条例騒音	県条例振動	計
設置届出	2	2	1	2	7
使用届出			1	2	3
使用全廃届出			1	1	2
数変更届出	2	2	2	3	9
防止方法変更届出					
使用方法変更届出					
氏名等変更届出	3	2	3	4	12
承継届出			1	1	2
計	7	6	9	13	35

3 建設作業の騒音・振動

これまで建設作業のうち著しい騒音・振動を発生する作業は、騒音規制法、振動規制法、県公害防止条例により特定建設作業実施の届出が義務づけられており、騒音・振動の規制基準、作業の禁止時間も定められていた。平成15年10月1日より「県民の生活環境の保全等に関する条例」が従来の愛知県公害防止条例から全面改訂され、トラクターショベルを用いる作業を追加するとともにこれまで整地・掘削作業に限定していたブルドーザー、パワーショベル等を用いる作業についても作業の種類を拡大し、すべての作業が対象となった。作業の方法や作業時間などを配慮することや、周辺住民に対して事前に工事内容を説明するよう指導している。

特定建設作業実施届出件数（令和4年度）

〈騒音〉

作業の種類	騒音規制法	県条例	
くい打機等を使用する作業	8	/	
びょう打機を使用する作業	0		
さく岩機を使用する作業	162		
空気圧縮機を使用する作業	27		
コンクリートプラント等を設けて行う作業	1		
バックホウを使用する作業	59		
トラクターショベルを使用する作業	3		
ブルドーザーを使用する作業	12		
建物等を動力、火薬等で解体・破壊する作業	/		63
コンクリートミキサーを使用する作業			69
コンクリートカッターを使用する作業		90	
ブルドーザー等を使用する作業		290	
ロードローラー等を使用する作業		125	
計	272	637	

〈振動〉

作業の種類	振動規制法	県条例
くい打機等を使用する作業	10	/
鋼球を使用して建物等を破壊する作業	0	
舗装版破碎機を使用する作業	2	
ブレイカーを使用する作業	148	
計	160	

4 道路交通騒音

道路に面する地域の環境基準の適合状況、要請限度の超過状況など道路交通騒音の実態把握と道路交通公害対策に資することを目的に愛知県が本市においては国道23号、県道瀬戸大府東海、国道1号で実施をしていたが、平成24年度より市が実施することとなった。

国道23号（要請限度は、昼間75dB、夜間は70dB）

測定結果

(LAeq 測定単位 dB)

測定日	測定場所	測定結果			
		昼間	要請限度	夜間	要請限度
平成30年 6月	栄町高根103	72	○	71	×
令和 元年 6月	栄町高根103	72	○	71	×
令和 2年 6月	栄町高根103	71	○	69	○
令和 3年 6月	栄町高根103	72	○	70	○
令和 4年 6月	栄町高根103	73	○	71	×

県道瀬戸大府東海（要請限度は、昼間75dB、夜間は70dB）

測定結果

(LAeq 測定単位 dB)

測定日	測定場所	測定結果			
		昼間	要請限度	夜間	要請限度
平成30年 6月	新田町子持松1-1	69	○	65	○
令和 元年 6月	新田町子持松1-1	70	○	66	○
令和 2年 6月	新田町子持松1-1	69	○	65	○
令和 3年 6月	新田町子持松1-1	70	○	65	○
令和 4年 6月	新田町子持松1-1	70	○	66	○

国道1号（要請限度は、昼間75dB、夜間は70dB）

測定結果

(LAeq 測定単位 dB)

測定日	測定場所	測定結果			
		昼間	要請限度	夜間	要請限度
平成30年 6月	前後町前江1717-3	68	○	65	○
令和 元年 6月	前後町前江1717-3	68	○	66	○
令和 2年 6月	前後町前江1717-3	68	○	65	○
令和 3年 6月	前後町前江1717-3	68	○	64	○
令和 4年 6月	前後町前江1717-3	68	○	65	○

第7章 悪臭

1 概況

悪臭は、公害の中でも個人差が大きいものであり、また順応性もみられることから客観的な評価が難しいものでもある。なお、防止についても原因が多種類の物質で構成されていることが多く、効果的な対策が困難であるというのが現状である。

発生源の明らかな場合は、事業所の立入調査をしてできる限りの客観情報を収集するとともに、専門機関等に助言を求めるよう要請するなどして改善対策を講じていく方法をとっている。

2 悪臭の規制の概要

事業活動に伴って発生する悪臭については、昭和47年5月31日施行の悪臭防止法によって、アンモニア等5物質が悪臭物質として指定され、地域の実態に合うように規制地域及び規制基準の設定を県知事が定めている。(なお、現在は市の区域にあっては、市長が規制地域の指定及び規制基準の設定を行うこととされている。)その後、法改正が順次行われ、悪臭物質が特定悪臭物質に改められ、現在22の特定悪臭物質が指定されている。平成8年4月からは、人間の嗅覚を用いた嗅覚測定法の「臭気指数」による規制が導入された。

悪臭規制適用地域及び規制基準

規制地域区分	第1種地域	第2種地域	第3種地域
特定悪臭物質 (ppm)	第1種・第2種低層住居専用、第1種・第2種中高層住居専用、第1種・第2種住居、近隣商業、準工業地域	都市計画区域で用途地域の定められていない地域	無し
アンモニア	1	2	5
メチルメルカプタン	0.002	0.004	0.01
硫化水素	0.02	0.06	0.2
硫化メチル	0.01	0.05	0.2
トリメチルアミン	0.005	0.02	0.07
二硫化メチル	0.009	0.03	0.1
アセトアルデヒド	0.05	0.1	0.5
スチレン	0.4	0.8	2
プロピオン酸	0.03	0.07	0.2
ノルマル酪酸	0.001	0.002	0.006
ノルマル吉草酸	0.0009	0.002	0.004
イソ吉草酸	0.001	0.004	0.01
プロピオンアルデヒド	0.05	0.1	0.5
ノルマルブチルアルデヒド	0.009	0.03	0.08
イソブチルアルデヒド	0.02	0.07	0.2
ノルマルバレールアルデヒド	0.009	0.02	0.05

イソバレルアルデヒド	0.003	0.006	0.01
イソブタノール	0.9	4	20
酢酸エチル	3	7	20
メチルイソブチルケトン	1	3	6
トルエン	10	30	60
キシレン	1	2	5

平成18年10月1日から従来の「物質濃度規制」から人の臭覚を用いた「臭気指数規制」に豊明市は変更した。

「臭気指数」は、問題となるにおいのついた空気や水をにおいが感じられなくなるまで薄めたときの希釈倍数（臭気濃度）から次式により算定する。

$$\text{「臭気指数」} = 10 \times \text{Log}(\text{臭気濃度})$$

参考 臭気指数10 =ほとんどの人が気にならない臭気の状態

臭気指数12～15 =気をつければ分かる臭気（希釈倍率1.6～3.2倍）

臭気指数18～21 =らくに感知できる臭気（希釈倍率6.3～12.6倍）

規制基準

「工場・事業所の敷地境界（1号基準）」、「気体排出口（2号基準）」及び「排水（3号基準）」に対する規制があり、それぞれに対する豊明市の規制基準は次のとおりである。

規制地域の区分	第1種地域（市街化区域）	第2種地域（調整区域）
工場・事業所の敷地境界	1.2	1.5
気体排出口	悪臭防止法施行規則第6条の2に定める方法により算出	
排水	2.8	3.1

3 悪臭関係工場等の状況

悪臭については、県民の生活環境の保全等に関する条例により悪臭関係業種の事業場は悪臭の状況を毎年届出することになっている。本市で該当するものは、牛房200㎡以上又は鶏3,000羽以上飼育の畜産業があげられる。

第8章 地盤沈下

1 概況

地盤沈下とは、一般的に広い地域において地表面が徐々に低下していく現象をいい、ひとたび沈下すると復元不可能という公害の中でも特異的な性質を持っており、過剰な地下水の汲み上げが地盤沈下の主な原因とされている。

本市においては、境川沿いに沖積低地が分布し、地下水の汲み上げも一部で行われているが、明らかな地盤沈下の発生・被害の確認はない。土壌汚染についても農用地土壌、市街地土壌とも汚染の報告はない。

2 地下水位測定

県の委託を受け地下水位の測定を月1回実施している。水位は若干の変化はあるが、測定地点付近で工事を行っている影響等が考えられる。

測定地点	所在地	固定点標高
藤田医科大学	沓掛町田楽ヶ窪1-98	39.771TP.m

○水位の状況

(単位：m)

令和4年度	藤田医科大学
4月	46.20
5月	46.10
6月	44.90
7月	50.60
8月	51.60
9月	50.10
10月	47.90
11月	46.90
12月	46.00
1月	44.80
2月	44.50
3月	46.20
平均	47.15
変動幅	7.1

○過去の平均水位

(単位：m)

年度	藤田医科大学
平成21年度	46.26
平成22年度	46.12
平成23年度	44.56
平成24年度	48.22
平成25年度	51.33
平成26年度	49.89
平成27年度	50.20
平成28年度	49.68
平成29年度	44.07
平成30年度	49.08
令和元年度	48.21
令和2年度	48.17
令和3年度	47.68
令和4年度	47.15

第9章 廃棄物

1 概況

経済活動の発展と消費生活の定着によりこれまで廃棄物の排出量は増加していたが、近年においてはごみの減量化、再資源化、省エネルギーを目的とし、分別収集、資源回収が進められ家庭系ごみの排出量は減少している。

本市のごみ処理は、大府市、東浦町、阿久比町で構成されていた東部知多衛生組合に、豊明市が加入（昭和41年）して共同で処理を行っている。平成元年に知多郡東浦町森岡に東部知多クリーンセンターを建設し、ごみ処理施設、粗大ごみの破砕処理施設を有し、ごみの焼却、破砕を行っていたが、平成31年3月に旧施設の横に新ごみ処理施設（200t/日）を建設し、処理を行っている。また焼却による余熱を温水プール（大府市大東町）にも有効利用している。資源は、昭和53年に前後地区をモデル地区に指定し分別収集を開始しその後市内全域に拡大した。

現在本市で発生した一般廃棄物は、市全域を対象に燃えるごみ、燃えないごみ、資源、粗大ごみの区分で、市直営のほか委託業者により収集し、東部知多クリーンセンターに搬入して処理している。資源については、各種リサイクル業者に引き渡し、資源リサイクルを行っている。

2 一般廃棄物の処理状況

ごみの収集は、市内全域を処理区域として家庭系一般廃棄物を収集しており、昭和56年より一部委託による収集も行っている。

ごみの種類と収集方法としては5体系

- ① 燃えるごみは、ステーション方式（2, 437ヶ所）で週2回収集している。
- ② 燃えないごみは、ステーション方式（2, 051ヶ所）で月1回収集している。
- ③ 容器包装類は、プラスチック製容器包装を燃えるごみのステーションを利用して週1回収集し、紙製容器包装を資源ステーションにて月1～2回収集している。
- ④ 資源は、ごみの減量と資源の有効利用を図るため、ステーション方式（444ヶ所）で月1回から2回収集している。なお、資源の回収を促進するため奨励交付金を実施団体に交付している。

資源は、清掃事務所及び㈱中西へ直接持ち込める。毎月第2・第4日曜日の午前9時～午後2時まで市役所第1駐車場にて資源の回収作業を行っている。

- ⑤ 粗大ごみは、電話申込みによる戸別有料収集を実施しており、毎週水曜日の収集で1点につき1, 030円の費用を処理券によって利用者から受取る形をとっている。

ごみ（家庭系）の排出量の推移

（単位：トン）

	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度
燃えるごみ	11,472.26	11,409.64	11,388.66	11,186.34	10,859.31
燃えないごみ	396.84	399.82	375.02	337.24	286.86
粗大ごみ	74.74	85.07	94.70	88.59	81.60
合計	11,943.84	11,894.53	11,858.38	11,612.17	11,227.77
対前年	▲96.15	▲49.31	▲36.15	▲246.21	▲384.40

（参照：令和5年度版清掃事業概要 環境課）

3 有機循環推進事業

平成26年4月1日より有機循環推進事業及び環境保全対策として、家庭から排出される生ごみの減量化及びその有効利用を図るため、生ごみ堆肥化容器等（コンポスト及びバケツ）の購入に対し、「豊明市生ごみ堆肥化促進容器等購入費補助制度」として購入費の一部を補助することとした。令和3年11月から補助対象となる容器の種類を増やしている。

補助金の額については購入価格の1/2以内の額とし、コンポストなどは、1世帯につき1基までとし3,000円を、バケツ型は1世帯につき2個までとし、1個につき1,000円を限度とする。

生ごみ堆肥化促進容器等補助件数

種別	平成30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	件数	基数	件数	基数	件数	基数	件数	基数	件数	基数
コンポスト	9	4	19	9	15	11	31	15	23	14
バケツ		7		14		5		20		13

（参照：令和5年度版清掃事業概要 環境課）

第10章 環境衛生関係

1 あき地の雑草除去

あき地に雑草等が繁茂すると、ごみ等の不法投棄を誘発したり、害虫の発生源になったり、火災若しくは犯罪発生の遠因となるため、平成18年4月1日より「あき地の保全管理に関する条例」を施行し、土地所有者にあき地の保全管理を義務付けた。

これまで、草刈り機の無料貸し出しを行っていたが、平成19年10月1日より「環境整備機具貸付規程」を全部改正した。幅広く草刈機を使用し、あき地の保全管理をさせていただくために貸付料制度を導入した。ただし、区・町内会の大掃除、ボランティア活動での除草作業での使用は無料である。

除草等の苦情受理件数

(単位：件)

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
件 数	165	159	120	98	128

草刈機の貸し出し状況

年 度	貸出件数	点検整備台数	整備委託単価(円)	整備委託金額(円)
平成30年度	261	257	1,620	416,340
令和元年度	289	280	1,620(4~9月) 1,650(10~3月)	455,550
令和2年度	279	268	1,760	471,680
令和3年度	289	292	1,760	513,920
令和4年度	263	258	1,760	454,080

草刈機の管理費用

(単位：円)

年 度	燃料費	部品代等	保険代	合 計
平成30年度	39,684	204,552	4,840	249,076
令和元年度	43,930	278,607	4,400	326,937
令和2年度	41,510	376,695	4,840	423,045
令和3年度	40,730	397,430	4,400	442,560
令和4年度	42,780	468,930	3,960	515,670

2 狂犬病予防

平成12年度狂犬病予防法の改正を受け、都道府県より事務移管を受けた狂犬病予防事務は、台帳の電算処理化、また各開業獣医師の協力を得て円滑に実施されている。

(単位：頭)

	登録頭数	集合注射接種数	個別注射接種数	注射接種総数
平成30年度	4,469	246	2,832	3,078
令和元年度	4,378	213	2,845	3,058
令和2年度	4,364	—	2,939	2,939
令和3年度	4,397	—	2,979	2,979
令和4年度	4,380	—	2,892	2,892

※ただし、数字は累計登録頭数

公益社団法人愛知県獣医師会及び四季の森どうぶつ病院に犬の鑑札交付手数料徴収事務及び鑑札交付に関する業務・狂犬病予防注射済票交付手数料徴収事務及び注射済票交付に関する事務を委託している。

年度	H30	R元	R2	R3	R4
鑑札交付枚数	71	70	76	82	68
注射済票交付	1,136	1,138	1,167	1,265	1,258
県獣医等委託金(円)	356,832	360,889	378,097	409,722	402,984

令和4年度単価：鑑札交付 300円・注射済票交付 275円(税抜き)

3 犬猫の避妊・去勢手術補助制度

野良犬猫、不要犬猫を減らすために犬猫の避妊と去勢の手術を奨励し、市内在住の飼い主が、県内の開業獣医師に施術を受けた場合、補助金を交付する。

(単位：円)

犬	避妊	4,500
	去勢	2,200
猫	避妊	3,600
	去勢	1,800

年度		H30	R元	R2	R3	R4
犬	避妊	49	63	47	68	68
	去勢	50	61	45	70	53
猫	避妊	133	124	132	94	93
	去勢	86	68	80	95	83
総数		318	304	316	327	297
交付金額(円)		964,100	929,700	986,500	969,400	906,800

4 犬猫等死体処理

道路上において亡くなった飼い主不明の犬、猫等の死体を収集し、火葬処理を業者に委託している。

	H30年度	R元年度	2年度	3年度	4年度
犬	3	1	0	1	0
猫	229	222	177	190	141
その他	104	98	116	99	120
総頭数	336	321	293	290	261
単価(税抜)	4,200	4,300	4,300	4,300	5,000
総額(円)	1,524,096	1,503,624	1,385,890	1,371,700	1,435,500

その他…鳥類・狸・ハクビシン・ねずみなど

5 犬猫の捕獲保護

市内で保護された犬・猫が、愛知県動物愛護センターに收容されるまで豊明市開業獣医師会に飼育管理を委託している。

管理費…犬猫の飼育管理費(基本料金)

保護費…センターに保護してもらった日数による(宿泊日数割)

単価 (税抜)	管理費	2,600円
	保護費	400円

実績

年度	管理頭数	管理費	延保護日数	保護費	合計
R2	0	0	0	0	0
R3	0	0	0	0	0
R4	0	0	0	0	0

第11章 新エネルギー対策

1 新エネルギーとは

自然の力を利用したり、今まで使われずにいたエネルギーを有効に使ったりする地球にやさしいエネルギーである。新エネルギーの導入によって石油や天然ガスなどの化石燃料の消費が軽減され、それに伴って排出されていた二酸化炭素の排出量を減らすことができるなどのメリットがある。

2 住宅用太陽光発電の補助制度

自宅の屋根等に太陽光発電システムを初めて設置する場合に設置費用の一部を補助する。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
件数(件)	84	84	85
補助金額(円)	8,000,000	8,000,000	8,000,000
予算額(円)	8,000,000	8,000,000	8,000,000

補助単価

平成25年度まで 1kWあたり20,000円(上限4kW 80,000円)

平成26年度より 1kWあたり25,000円(上限4kW 100,000円)

平成27年度をもって制度廃止

3 エネファーム補助制度(平成27年10月から令和3年度まで実施)

住宅における再生可能エネルギーなどの有効利用を促進するために、家庭用燃料電池システム(エネファーム)を新たに設置する人に費用の一部を補助する。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
予算額(円)	800,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
補助件数(件)	12	20	20	15
補助金額(円)	600,000	1,000,000	1,000,000	750,000
発電出力	5.6kW (0.70kW×12)	14.0kW (0.70kW×20)	14.0kW (0.70kW×20)	10.5kW (0.70kW×15)

	令和2年度	令和3年度
予算額(円)	1,000,000	1,000,000
補助件数(件)	20	5
補助金額(円)	1,000,000	250,000
発電出力	14.0kW (0.70kW×20)	3.5kW (0.70kW×5)

令和3年度をもって制度廃止

4 V2H補助制度（令和4年度から実施）

電気自動車等充電システム（V2H）を新たに設置する方に費用の一部を補助する。

	令和4年度
予算額（円）	1,000,000
補助件数（件）	4
補助金額（円）	400,000

5 地球温暖化防止対策に関する施策

（1）豊明市庁内等環境保全率先実行計画

平成13年4月より温室効果ガス削減に向けて豊明市の計画的な取組みを進めるため、庁内のプロジェクトチームにより「とよあけエコアクションプラン」を策定し、目標値を定めた行動指針（及び調達指針）に基づいて実行していくこととした。現在は令和3年度～令和12年度の10か年でVersion5として実行している。

とよあけエコアクションプラン Version 5

- ・期 間 令和3年度～令和12年度（10か年）
- ・対象施設 豊明市のすべての組織、及び施設
- ・目 標 令和12年度の温室効果ガスの総排出量を平成25年度比26%削減

（2）太陽光発電システムの本庁舎への設置

市役所本庁舎増築に伴い、環境にやさしい公共施設をめざし、総出力30kWの太陽光発電システムを設置し、活用している。

（3）低公害の公用車導入

自動車排出する窒素酸化物等の削減を図るため、発生源対策として自動車排出ガス規制の強化のほか、電気自動車等の低公害車の普及促進や排出量の少ない車両への代替を促進し、公用車を更新する際には、電気自動車等の低公害車を導入している。

(4) 豊明市水上メガソーラー発電所の完成

平成29年3月に豊明市北部の若王子池に豊明市水上メガソーラー発電所を完成させ、発電を開始した。水上メガソーラーのパネル数は6,720枚、面積は19,429.6平方メートルで、毎年一般家庭約600世帯分に相当する電力をまかなうことができる。

● 発電量

(単位：kWh)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
4月	240,451	235,190	220,282	213,850
5月	243,427	241,188	217,610	203,690
6月	235,632	224,114	197,894	234,953
7月	176,232	154,193	167,210	192,254
8月	231,034	201,982	177,461	219,962
9月	194,028	174,475	130,339	174,540
10月	154,558	130,591	133,260	126,247
11月	163,572	140,086	133,474	162,036
12月	117,144	142,006	107,753	114,986
1月	127,306	126,283	120,288	125,016
2月	163,464	151,358	155,556	159,624
3月	187,747	175,378	179,256	184,152
合計	2,234,595	2,096,844	1,940,383	2,111,310

※計量期間は、毎月19日～翌月18日（中部電力ミライズ(株)）

第 1 2 章 環境関連年表

年	できごと
昭和 31 年	国道 1 号完成
昭和 32 年	町制施行(人口 12,833 人)
昭和 34 年	伊勢湾台風
昭和 36 年	全町に広域簡易水道完成
昭和 41 年	東部知多衛生組合に加入
昭和 43 年	ナガバノイシモチソウ県天然記念物に指定
昭和 44 年	国道 23 号開通
昭和 46 年	二村台団地入居開始
昭和 47 年	市制施行(人口 37,038 人)
昭和 53 年	資源ごみ回収事業モデル地区開始(前後区)
昭和 54 年	530 運動開始
昭和 58 年	国道 23 号知立バイパス開通
昭和 59 年	市一般廃棄物最終処分場・清掃事務所完成
昭和 61 年	生ごみ堆肥化容器(コンポスト)購入補助制度開始
平成 元年	東部知多クリーンセンター竣工 合併処理浄化槽設置費補助制度開始
平成 3 年	犬、猫避妊等手術費補助制度開始
平成 4 年	くうかん鳥による空き缶回収事業開始
平成 5 年	EMボカシの無料配布開始 生活排水対策重点地域に指定
平成 6 年	生活排水対策推進計画策定 異常濁水による時間断水
平成 7 年	環境保全推進委員制度開始
平成 9 年	ペットボトル分別収集開始 廃棄物減量等推進員制度開始 東部知多浄化センター完成 空き缶等のごみポイ捨て及びふん害の防止に関する条例施行 水質浄化施設バイオコード設置 粗大ごみ戸別有料収集開始
平成 10 年	生ごみ堆肥化モデル事業開始(豊明団地の一部)
平成 11 年	生活排水対策推進計画改定 環境基本条例施行・基本計画策定開始 環境監視員設置

	廃棄物 5 条例施行 指定ごみ袋制度開始 生ごみ堆肥化モデル地区の拡大（中ノ坪北・社・豊明団地 520 世帯）
平成 12 年 (西暦 2000 年)	生ごみ処理機器購入補助制度開始 狂犬病予防業務県知事より委譲 環境フェア開催
平成 13 年	豊明市環境基本計画策定 容器包装（プラスチック製及び紙製）分別収集開始 住宅用太陽光発電システム設置費補助制度開始 「有機循環都市とよあけ 100 年プラン」策定及び推進プロジェクトチーム設置 生ごみ堆肥化事業モデル地区を推進地区へ名称変更
平成 14 年	くうかん鳥による空き缶回収事業の廃止
平成 15 年	生ごみ堆肥化事業推進地区を拡大（三崎全地区）
平成 17 年	環境フェア単独開催最終 沓掛堆肥センター建設（沓掛町上山地区）
平成 18 年	沓掛堆肥センター（エコンプとよあけ）稼働開始 生ごみ堆肥化容器及び生ごみ処理機器購入補助制度廃止 住宅用太陽光発電システム設置費補助制度廃止
平成 19 年	とよあけ Eco 堆肥の販売開始 草刈機の有料貸出し開始 生ごみ堆肥化推進地区拡大（豊明団地 21 棟分・ゆたか台区・坂部区・前後区）
平成 20 年	レジ袋有料化開始 生ごみ堆肥化推進地区拡大（西川区・吉池区・中島区） 生活排水対策推進計画改訂
平成 21 年	豊明まつり 環境フェア 廃止 ダイオキシン類測定調査 廃止 NO ₂ 簡易測定カプセル事業 廃止 蜂の駆除事業 廃止 犬、猫避妊等手術費補助制度の補助金額の切下げ 合併処理浄化槽設置費補助制度の補助金額の切下げ
平成 22 年	COP10 出展 県内鳥インフルエンザ発症
平成 23 年	住宅用太陽光発電システム設置費補助制度再開

平成 24 年	豊明市清掃事務所、㈱中西及び日曜日資源ごみ回収ステーションにて使用済小型廃家電の回収を開始
平成 25 年	平成 24 年度末をもって廃棄物減量等推進員制度廃止 新エネルギー推進委員会発足
平成 26 年	新エネルギー推進計画策定 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画策定 「ごみの分け方・出し方」パンフレットに有料広告掲載 住宅用太陽光発電システム設置費補助制度の補助金額の引き上げ 消費税率の上昇に伴う一部の販売価格、貸付価格の引き上げ 生ごみ堆肥化容器等（コンポスト及びバケツ）購入一部補助制度開始 太陽光発電屋根貸し事業開始（全小中学校）
平成 27 年	エネファーム補助制度開始
平成 28 年	生ごみ個別収集終了 鳥インフルエンザ県内発生 住宅用太陽光発電システム設置費補助金制度の廃止
平成 29 年	豊明市水上メガソーラー発電所稼働 堆肥センター廃止 公営墓地（勅使墓園）使用申込要件変更 （現に埋葬すべき遺骨は不要とする） （3年以内に墳墓を設ける条件の撤廃）
平成 30 年	犬猫火葬場使用委託（知立市逢妻浄苑）の廃止
令和 元年	東部知多クリーンセンターごみ処理施設竣工
令和 3 年	第2次豊明市環境基本計画策定 公営墓地（勅使墓園）使用申込要件変更（豊明市居住の要件を不要とする） 生ごみ堆肥化容器等（コンポスト及びバケツ）購入一部補助制度における補助対象容器の拡充
令和 4 年	公営墓地（勅使墓園）の指定管理化 エネファーム補助制度廃止 電気自動車等充給電システム（V2H）補助制度開始 環境フェスタ開催 プラスチック一括回収開始 墓地に関する意識調査実施